



Since 1950

Pittcon2019

Guide

機器分析に関する世界1のコンファレンス

Pittcon ガイドブック



Pittcon2019 への参加を検討している方へ

1. 開催場所と期間

開催場所 米国ペンシルバニア州フィラデルフィア

開催日時 コンファレンス 2019 年 3 月 18 日 (月) ～21 日 (木)

展示会 2019 年 3 月 19 日 (火) ～21 日 (木)

詳細は <https://pittcon.org/pittcon-2019/>

2. 参加登録

登録はコンフェリーとエキビジターの 2 種類です。

通常の参加者はコンフェリー登録をします。

コンフェリー登録は WEB で 10 月 1 日に開始されます。

開催日から 1 カ月前より登録料が高くなります。

注) コンフェリー登録者はコンファレンス会場への入場に制限はありませんが展示会場へ入場出来るのは展示会開催時間のみです。

出展者はエキビジター登録をします。

(1 ブースの出展に対して最大 4 名の登録が出来ます。)

3. コンファレンスでの発表

コンファレンスでの発表の締め切りは毎年 8 月中旬です。

4. ブース出展

ブース出展に組織や業種による制限はなく、一律、会場内の小間が配分されます。小間装飾は日本からの出展では原則として業者の提供する機材を利用するのが事前の準備や撤収に関して都合がよいと思います。米国の企業は装飾を全て持ち込む場合も少なくないですが、日本から輸送するよりは現地調達の方が廉価であり、展示場内の手続き等も容易です。

ブース出展の受付は 7 月に開始、ブースの埋まり具合により開催直前でも受け付けてくれることがあります。受付日が早いほどブースの場所が中心に近い場所となる傾向があります。

5. 宿泊

通常はコンファレンス主催者が無料の送迎バスを運行するホテルに宿泊するのが便利です。宿泊の予約は 1 年前から可能です。直前の予約は高額となり、Pittcon が推奨するホテルが宿泊不可能の可能性もあります。

I. Pittcon の紹介

1. Pittcon の由来

通称ピットコン(Pittcon)は正式名称を“Pittsburgh Conference on Analytical Chemistry & Applied Spectroscopy (分析化学と応用分光学に関するピッツバーグ会議)”と言い、研究者の研究発表や企業の技術者の製品試作に関する発表等をする会合(コンファレンス)と、分析機器、前処理装置、実験機材、標準試料等を供給するメーカーやディーラーが参加する展示会が同じ重要さをもって開催されます。Pittconはピッツバーグ大学の愛称Pittにコンファレンスの頭の3文字conをつけたコンファレンスの商標です。

2. 機器分析の歴史と共に歩み続ける Pittcon

Pittcon は化学反応を利用せずに電気計測によって「化学分析」を行う機器分析技術の迅速な進歩のため、大学の化学研究者とメーカーの技術者がお互いに協力する場として設けられました。このため、機器分析に関する研究や開発の発表を行う場としてのコンファレンスと、メーカーの開発する部品、試薬、装置等を展示する展示会が設置されています。1950年に第1回のコンファレンスが開催されてから参加者は毎年、増加し、それに伴ってコンファレンス会場として利用出来る大規模なコンベンションセンターが必要となりました。このため1980年代から会場は、シカゴ、ニューオーリンズ、オーランド、アトランタの4箇所に限られ、これらの都市で順繰りに開催されました。

3. 新たなコンファレンスへと変貌する Pittcon

Pittcon は、新しい分析機器の開発や性能・機能の向上により実用化が進展する間は、ベンチャー企業から大手企業までが新製品や性能機能を改良した製品発表の場となり、中南米、アジア、欧州等、世界中から研究者や代理店のバイヤー等が集まりました。しかし、機器分析の用途の増加により、分析機器は「実験室での研究開発用途」から生産現場や途上国での輸出用食品の品質検査等の道具として使用されることが多くなりました。また新しい分析法を必要とする研究開発の対象の中心が製造業の材料や製品からバイオマテリアルをベースとする医薬品や食品等に変化してきました。

特にここ10年は分析機器の道具としての使用が増え、機器の性能の向上や新機能の付加等にも耳目を集めるものが減少し、それに伴ってPittconの参加者も減少傾向が続きました。既に数年前から、コンファレンスの内容は生命科学、医薬品、食品等のテーマの割合を増やし、昨年から今まで不満の多かった展示会の開催日数を3日間に短縮しました。また、展示会場もリゾート色の濃い都市から、2024年よりバイオ産業が集積する、ボストン、サンジェゴ、フィラデルフィアの3都市で開催することになることが昨年、発表されました。

4. Pittcon の主催団体

主催者は NPO 法人の Pittcon Committee（以下コミッティー）です。本部事務局はピッツバーグにあり、そこのトップマネジメントチームがコミッティーの方針や外部との連携等の案件を司ります。コミッティーはピッツバーグ大学の教授陣とピッツバーグとその近郊にある企業の技術者や経営管理者を中心に構成され、この中には現役とともに既に現職を離れた元教授や元技術者が含まれています。これらの二百人余構成員がボランティアとしてコンファレンスと展示会の運営を行います。コンファレンスの運営責任者であるプレジデントやコンファレンスのプログラムチェアマンは構成員の中から選ばれますが任期は 1 年で毎年交代します。プレジデント等は数年先まで決まっており、次年度以降のプレジデントの方々も運営に携わることで継続性のあるコンファレンスが行われています。

5. Pittcon の開催時期と参加

ピッツバーグ大学が春休みとなる毎年 3 月に開催されます。2019 年はフィラデルフィアのコンベンションセンターで、コンファレンスは 3 月 17 日（日）から 21 日（木）までの 5 日間、展示会は 3 月 19 日（火）から 21 日（木）までの 3 日間開催されます。コンファレンスの申込は既に終了していますが、展示会へのブース出展の申込は直前になっても可能な年があります。参加者の登録は 10 月に開始されます。現在これらはすべて WEB 経由です。また現在は多くの情報が事前に WEB に掲載され、その情報を基にして参加の可否を決める場合も少なくないので、早めに登録をすることを勧めます。また参加は現地で宿泊が原則となるので、宿泊ホテルも早めの予約が肝心です。

6. 1950 年の第 1 回 Pittcon

19 世紀後半から 20 世紀前半に米国の産業の一つの中心地として、鉄鋼産業（ニューヨークのカーネギーホール等に名が残るカーネギーは当時鉄鋼王といわれていました。ピッツバーグにあるカーネギーメロン大学はカーネギーとアルミ産業で財をなしたメロンの名を冠しています。）やガラス産業を中心に一世を風靡していたピッツバーグは、2 回の世界大戦で都市として衰退に向かいました。当時はちょうど、現在の紫外可視の分光器や赤外の分光器等が実用化され、分析機器が大学や研究所の実験室に設置された時期です。今では及びもつかないと思いますが、当時は装置を稼動し、データを取ることもそのものが大変で、いいデータをとるためには、装置の特性や動作原理等を熟知する必要がありました。装置付属のマニュアルを読むよりも、直接メーカーの技術者を呼んで特性や動作原理について勉強した方がいいということで、大学の研究者とメーカーの技術者が共同の勉強会を始め、このメンバーが中心となって、Pittcon Committee が発足しました。第 1 回の Pittcon はピッツバーグのダウントウンにあるウイリアムペンホテルで 1950 年 2 月 15 日（水）に開催されました。参加者は 800 人、展示は 14 社、25 ブースでした。

II. Pittcon 参加者の活動

① 宿泊をして活動

日本の代表的な展示会である JASIS 展との違いは第 1 に、Pittcon はコンファレンスとしてセミナーやシンポジウムが主体となった催事であることです。第 2 の違いは参加者が現地に滞在することです。日本の展示会ではほとんどが日帰りの見学者ですが、Pittcon は参加者の半分以上がセミナーやシンポジウムで発表を行い、自身が手掛ける研究と類似の研究を行う研究者の講演の聴講を目的とする研究者や技術者で、泊りがけで参加します。

② 展示者と研究者の対話

最先端の研究や機器の開発に関する発表をする研究者には、研究を遂行するために必要な機器やデバイス、部品を実際に手に取って技術者と検討する機会が大切です。発表で参加する研究者にとって Pittcon の展示会でこれらの機材を見て機器を取り扱うエンジニア等と議論をかわすことはいい機会なのです。また、会場内の各企業ブースを回り、自分の研究に使える性能がよい機材や改良された機材を調査することも重要です。Pittcon の展示会場のブースは業種による区分がないのが特徴で、JASIS 展が専門店街だとすると Pittcon はショッピングモールと言えます。Pittcon の出展者で一番多いのは、標準物質等の試薬を扱うメーカーや販売会社です。また、マーケティングを兼ねて試作品を展示することも行われています。

③ 商談の機会

滞在型であるため、期間中に商談を行う企業が多くあります。その場での出会いがしらの商談よりも展示会の始まるまえにあらかじめ時間と場所を決めて商談するのが普通です。また米国外から参加する人も 2 千人程度いるので、商品の販売だけではなく代理店契約の相談や提携の相談等が行われます。一方、コンファレンスに参加する研究者や技術者に対して装置を稼働させ、サンプル測定をするメーカーの数は減少しており、Pittcon の展示会はビジネスの場としての利用で幅広く活用されることが多くなっています。

④ テクニカルプログラム

コンファレンスは機器分析に関して幅の広い分野のテーマのシンポジウムが毎年 50 テーマ程度開催されます。これは Pittcon の主催者が分析化学と応用分光学（日本では応用物理学会と分光学会に該当する）に関して研究開発に取り組む研究者と技術者で構成されているからです。コンファレンスには 3 つのタイプのセッションがあり、第 1 は講演者が 5 名のセッションで、この中にはスポンサー名を冠したシンポジウムもあります。第 2 は講演者が 8 名の OCS (Organized Contributed Session) で、主催者がセッションテーマと演者を公募して、採択を決めます、当法人も 2012 年から毎年主催をしています。第 3 は主催者が行う基調講演や 10 余の賞の受賞者による講演を中心とするセッションです。

⑤ 会場までの交通

開催都市の 25 程度のホテルを Pittcon の主催者が選んでオフィシャルホテルとし、このホテルと会場は主催者が用意する専用の無料のバスで往復出来ます。

Ⅲ. Pittcon 展示会の紹介

Pittcon の展示会の開催期間は火曜日から木曜日の 3 日間で時間は 9 : 00 から 17 : 00 です。。これに対して、コンファレンスは月曜日から始まり 4 日間行われます。8 : 30 開始され、昼食時の中断を挟んで 17 : 30 まで行われます。

① 基調講演

2019 年の講演は 3 月 18 日月曜日の午後 5 時から「Wallace H. Coulter Lecture」が 2016 年ノーベル化学賞を受賞した米ノースウエスタン大学のフレイザー・ストッダート (Fraser Stoddart) 教授により“Serendipity Stokes Discovery: Disrupting Established Industries”というテーマで、3 月 19 日火曜日の午後 5 時から「Plenary Lecture」が“Preserving and Revealing History – Challenges of a Cultural Heritage Scientist”というテーマでフィナル・フランセにより行われます。

② 展示会の開会式

展示会の開場は火曜日の午前 9 時ですが、その前の 8 時 45 分頃から会場のメインゲート前で開会式が行われます。開会式は主催者の代表の挨拶と展示会が行われる地域の代表の挨拶があります。一連の挨拶のあとテープカットがありますが、テープカットは日本と全く異なり大きな一つのハサミを使用します。時間があればぜひ見学して下さい。日本のように仰々しさはありませんので、軽装で見学が出来ます。



③ 展示会の情報収集

展示会の情報とコンファレンスのプログラムはホームページ上に事前に掲載されますので、展示会社の概要、ブース番号等はホームページで確認して下さい。当日、主な会場の入口の前に置いてあるのが Pittcon の展示会ガイドとコンファレンスの最終プログラムです。また、開催期間の間、毎朝会場の入り口脇に、展示会のタブロイド紙「Pittcon Today」が置かれます。2 日目、3 日目の冊子には前日に撮影された写真なども掲載されますが半分は展示会社の広告です。

また、展示会場内外には案内所が設けられており、会場内の案内とともに街のレストランの紹介や観光の案内をしてもらえます。





④ 展示会の歩き方

会場内のブースは通常 1000 番~4000 番までの番号が付いています。天井から 2400 番、3500 番といった垂れ幕が下がっていますので、それを頼りにブースを見つけることができます。

⑤ プログラムロケーター

製品だけでなく多様な出展があるので、目的とする製品やサービスを見つけるには労力が入ります。このような場合に会場内に全出展者の展示内容を検索できるパソコンがある机が 2 か所から 3 か所に設けられています。例えば装置名を入れると、その装置を展示しているブースと企業がリストとしてプリントできます。



⑥ ポスター会場

コンファレンスのポスター会場が展示会の会場に隣接して設けられます。ポスターで新製品の技術的な内容を発表し展示ブースに対応する新製品を出展するようなケースが最近出てきました。

⑦ 主催者が用意する展示会場内のコーナー

Pittcon の主催者は複数のコーナーを用意しています。展示会場の中に広場が設けられ、毎年趣向の異なる催事が開催されます。展示会場のブースに隣接する場所にはパンフレットと無料のリングが置いてある複数のコーナーがあります。ブース内には参加者全員がもらえるバッグを配布するコーナーと、荷物のタグや顔写真入りのカップなどをその場で制作してくれるコーナーが 2, 3 か所に設置されます。その他に歴史に興味があれば、Pittcon Hall of Fame のコーナーを探してみてください。このコーナーでは機器分析の起業家に対する賞「Pittcon Heritage Award」を受賞した人の紹介がされています。

IV. Pittcon のビジネスへの活用

Pittcon には様々な目的で参加することが出来ます。ここでは参加する方の主な目的を視察、製品展示、販売機材探索、コンファレンスの活用に区分して紹介します。

IV-1. 展示会の視察

○ブースの訪問

展示会は3日間ありますが、小間数は1000ちかくあり、区分もないので、見ておきたい機器



があれば、事前に Pittcon のホームページで企業のブース番号を調べておくとも便利です。Pittcon では展示企業の属性（国籍や業種等）によりブースを区分することがありません。部品メーカーの隣のブースがスペクトルの解析をするソフトの会社であったり、複数のメーカーの機材を販売する販売会社であったりします。このため展示会場ではブース番号を便りに目的の会社を見つけるのが効率的です。とはいえ、いくつかの特徴

あるコーナーが設けられています。初めて Pittcon に出展する企業を集めたコーナー「New Exhibitor」が展示会場の一角にあります。また「Laboratory Informatics」のコーナーも一角を占めています。

○資料の入手

以前はカタログや技術資料等、ブースで配布するのが常でしたが、インターネットの普及により、このような配布をすることは少なくなりました。基本的なことは WEB に掲載してあるのでそれを参照してほしいというようになりました。資料が必要な場合にはブースでどのような情報が欲しいのかを明示することが大切です。この時に WEB に掲載してあるような情報についての質問や資料の請求をするのは、逆効果になる場合があります。



○ブースでの面談

展示会は3日間ありますが、展示会の最初の2日間のみ滞在する展示者も今までは多くいました。トップ経営者や販売や技術の責任者等にこのようなケースが多くみられます。また、ブースを訪問したら不在だったり、面談中だったりすることも多々あります。面談を希望する場合はなるべく初日にブースを訊ねて、相手が滞在中の間に面談時間をとってもらえるようにします。ブースでの面談をすることは展示会に参加する重要な目的の一つになっているので、展示会の始まる前に訪問予定の企業等の情報を WEB から得てブースで手際よく質問や議論をすることが必要です。このために事前の準備をすることが大切になっています。

PAI-NET では現地でこのような面談の支援を行っています。

IV-2. 自社製品の海外進出

Pittcon はコンファレンス中心のため、成果をコンファレンスで発表することが出来、展示会には最先端の研究者から世界中のバイヤーまで集まるので、カタログ展示やブースでの製品で海外進出を図るためのマーケティング活動を行うのに最適な展示会です。

○ 世界中から集まるバイヤーとディストリビューター

Pittcon の展示会には世界中から販売代理店の責任者が参加しています。特に中南米やアジア。そして最近では中東やアフリカからもビジネス目的の参加者が増えています。彼らの第1の参加目的は米国の製品を自国に輸入するためですが、いい製品が展示されていれば日本製でも構いません。PAI-NET では何社かの会社の製品の海外進出の支援を行い、展示会のブースで製品の展示等を行いました。その結果、今までブースを訪れた方の国はカナダ、メキシコをはじめ南米ではブラジル、アジアは、韓国、中国、台湾、オーストラリア、フィリピン、タイ、ベトナム、モンゴル、中近東で UAE、サウジアラビア、欧州からは英国、ドイツ、デンマーク、イタリア、フランス、アフリカでは南アフリカ等で、このように世界中から Pittcon に来ていることがわかりました。

○ 連続して出展することが大切

新製品がいくら優れているとしても、消耗品の供給や装置の保守、故障した時の対応、製品が安定して供給出来ること等、購入側がチェックする項目はたくさんあります。このため海外市場進出を果たすためには、これらの製品の供給を行う企業の信用が問われます。この信用を得るために必要なことが毎年、継続して展示することです。

このための支援を PAI-NET も行っています。

○ ブースでの製品展示

世界各国から自国で販売する商品を探しに集まる方に対しては製品を展示することが大切です。最近ではディスプレイによるビデオ(動画)で製品の紹介をする場合が多くなりましたが、実際に製品があるのとないのでは大きな違いです。特に新製品は展示をする効果が大きいと思われれます。Pittcon の展示では既に市場を確保し、ブランドが確立している企業も多く、そのような企業はビデオでの紹介で充分と思えますが、日本から新規に進出する場合にはカタログやデータとともに実機の展示が効果的です。また、製品の展示と共にコンファレンスで発表することは装置に興味をもつ研究者や企業を見つけるのに効果的です。また、最近ではブースでの技術的な説明は簡単にして、ポスター発表で展示する機器の技術的な内容を発表することも行われるようになりました。

○ ブースを出展する場合は

展示会の展示ブース出展の申込は最近では展示会直前になっても可能ですが、展示会場内の中心に近い場所での出展を希望する場合には通常は7月中旬に締切があるブース料金の割引価格期間に申込みを進めます。展示会場でのレイアウトは10月初めには決まりますので、それまでには申込をしておくのが無難です。尚、ブースを申込みとコンファレンスの登録料は4名まで免除されます。

IV—3. 日本にない機器・サービスの探索

日本には多数の輸入代理店があります。企業規模の大きい代理店の中には総代理店の契約を交わしている場合も多く、Pittcon にブース展示をしている企業の製品が日本では見かけなくても、既に日本に代理店がある場合も少なくありません。それでも、Pittcon の展示会で出展している企業の担当者と会うことには意義があります。

○ 目的とする商品がない場合

探索をする範疇が決まっても一般的な機器やサービスの名称はだけで商品名まではわからないのが普通です。このような場合には、展示会に出発する前に Pittcon のホームページ上で出展者と出展商品を確認しておくことが出来るかどうか分かりません。会場をくまなく探すことになります。Pittcon では類似の製品があるブースがまとめられておらず、最近では、実際に大型の機器を展示することも少なくなりました。反面、動画を利用したプレゼンが多くなっています。また、WEB に詳細が掲載されている場合も少なくありません。Pittcon の出展ブースは 1000 ブース近くあり、移動するだけでも時間がかかりますので、余裕があれば、事前にあらかじめ訪問するブースの目途をつけておくことが望めます。会場内に出展者をキーワードで検索出来るコンピュータの端末があるので、それで調べることも可能です。

○ 有望そうな商品を見つけた場合

商品の仕様等についてブースで情報を得ることは当然として、この商品に関してコンファレンスでの発表やポスター発表が行われているかどうか、また日本に代理店があるかどうかを確認することが必要です。商品によっては総代理店契約が結ばれている場合もあります。Pittcon にブース出展をしている企業には大企業からベンチャー企業まであり、また米国以外にカナダ、メキシコや欧州、最近では韓国や中国の企業も出展をしています。取引を希望する商品だけでなく、商品を供給する企業についての調査も必要です。米国では機器メーカーの寡占化が進み、出展している小企業の中には大企業の子会社も少なくありません。

○ 目的とする商品がある場合

輸入を希望する商品がある場合には事前に WEB 上で情報を得て、展示会期間中の面談を予約することがベストです。展示会は今年から 3 日間と一日短縮されましたが、権限をもつ人が展示会に来るのは圧倒的に 1 日目だけとか 2 日目までが多く、滞在期間の大半が事前の面談の予約で占められていることが少なくありません。事前の面談の約束がない場合には、初日の早い時間にブースを訪問して予定を確認し、面談の時間を予約するのが賢いやりかたです。このため事前に Pittcon のホームページでブース番号等を調べておくなどの準備が望めます。また、面談ではこちらの要求を整理して単刀直入に面談の目的と質問や要求項目等を述べるのが大切です。1 日目に面談をすれば、会期中に再度の面談をする手はずをつけて交渉をまとめることが可能になります。また相手先の企業についても規模、業績等の情報を事前に得ておくことが大切です。

IV-4. コンファレンスへの参加

Pittcon の参加登録はコンファレンス参加登録 (Conferee) と展示者登録 (Exhibitor) の 2 種類があります。展示会を見るだけの場合はコンファレンス登録となるので気をつけて下さい。展示者登録の場合にもコンファレンスの聴講が出来ます。コンファレンスではメーカーの発表もたくさんあるので、競合会社の発表等、これと思う発表が聴講出来ます。特に米国や欧州に本拠地を置く企業の場合には日本に技術者が来て技術的な内容についてのプレゼンをすることがあまりありませんが、このコンファレンスでは最新の情報を含む内容を発表することが多く、これらの企業のレベルの高さが実感出来ます。コンファレンスの会場は通常展示会場のビルの上階にあるので、展示会を見学していて、発表のある時間だけ聴講をすることが可能です。

コンファレンスは通常の口頭発表とポスター発表の他に多彩なテーマのテクニカルプログラムがあります。毎年行われる口頭発表とポスター発表の募集要綱は 6 月に掲示され締切は 8 月中旬です。特に新製品を展示会に出展する場合に、コンファレンスの発表と組み合わせることで、出展の効果を上げることが出来ます。発表に応募した論文は審査により希望した口頭発表ではなくポスター発表に回される場合があります。テクニカルプログラムはこの他にシンポジウム、ワークショップ、OCS の 3 つのカテゴリーがあります。応募された論文の発表は OCS と同じ形式で行われます。シンポジウムは 5 名の講演者が質疑応答を含めて一人 35 分の持ち時間で行われます。ワークショップは講演者の人数と時間を決めることが出来ます。OCS は講演者が 8 名で質疑応答を含めて一人 25 分の持ち時間です。尚、口頭発表の講演時間は質疑応答を含めて 20 分です。また、コンファレンスの中でポスター発表は展示会場内に設営されたポスター会場で行われます。

コンファレンスの開催時間は展示会を見るための時間の配慮がされており、11 時半から 1 時半までがこの時間にあたります。講演開始は午前が 8 時半、午後が 1 時半となっています。コンファレンスでは多数のセッションが同時に行われます。部屋の番号をたよりに場所を探すことになりますが以外にわかりにくいことも多いので事前に場所を確認することをお勧めします。昨年から火曜日の午後のコンファレンスは開催せずに展示会のみとなりました。

コンファレンス会場



V. Pittcon での PAI-NET の活動と参加者支援

分析産業人ネット（PAI-NET）は「地域・組織・職種を超えた個人のネットワーク」を基盤とした活動を行うことをミッションとして 2004 年に発足し翌年の 2005 年から、この Pittcon の展示会に毎年ブース出展をしています。2008 年に Pittcon 主催者の所在地があるペンシルバニア州ピッツバーグ市を訪問してお互いの交流を深めるとともに、相互の交流に関して覚書を交わし、その覚書に基づいて活動を展開しています。具体的には展示会でのブース出展とコンファレンスの OCS でのセミナーの主催、日本から Pittcon に参加する人への現地で Pittcon について紹介するランチョンセミナーの開催、とコミッティとのミーティングを行います。また日本で行われる JASIS 展の Pittcon ブースの展示を行っています。

Pittcon の展示会へのブース出展では、PAI-NET そのものの知名度の向上を図り、当法人の活動を推進するためのマーケティング活動を行います。マーケティングは機器分析に関する動向を探るとともに、機器分析技術の普及に活用できる機材の探索も行っています。機器分析に関する動向調査は主に技術開発と市場の動向を探るためにセミナーや出展製品等の調査を中心に進めています。また、機材の探索では既に普及に有力な商品を見つけ、当法人の通信販売サイトネットバザールで日本での販売を推進しています。

出展したブースは Pittcon での日本の企業や非営利団体の活動を支援する拠点としても活用します。今までに商品カタログの展示、日本の展示会の案内パンフ等のドキュメント類の展示と会場での配布、試作品や新製品の展示を行っています。当法人の展示代行の特徴は連続して支援を行う点にあります。コンファレンスにおけるセミナーの主催は 2011 年より北海道大学の渡慶次教授や東京大学の馬渡准教授等の協力を得て行っています。日本のこれからの学会を担うことが期待される中堅・若手の研究者を中心としたプログラムを編成しています。日本の中堅・若手研究者は欧米の研究者に比べるとお互いの交流機会が少ないのが現状で最先端の研究を行う研究者間のネットワークの構築が不足しています。Pittcon での発表がそれを補うことが出来ると期待しています。

展示会初日に「ランチョンミーティング」は Pittcon の主催者に便宜を図って戴き会場内の一室行います。視察ツアー等の参加者だけでなくコンファレンスの講演者や展示会の担当者等、日本人の参加者を集めて行います。Pittcon に初めて参加する方も多いことに鑑み、Pittcon に関する歴史の紹介から展示会での効果的な情報収集等に至るまでの最新の情報を提供します。また、その場で PAI-NET メンバーによる Pittcon での調査や商談の支援等に関するアドバイスを行っています。Pittcon をビジネスの場として参加する方には個別に面談の支援や視察のアドバイス等のマーケティングの支援を行います。

このような展示会の場を活用した活動の他に毎年、PAI-NET メンバーと Pittcon 主催者とのとの会合により最新のニュースを、他のブース出展者や CHF(Cheical Heritage Foundation)との打ち合わせ等で、マーケティングに関する情報の収集、展示ブースでの当法人が開発した機器や制作した英文の冊子の紹介等の活動を行っています。

PAI-NET[の市場開発支援

1. 市場導入のためのカタログ展示

貴社の会社案内、製品のカタログを Pittcon の PAI-NET ブースで展示します。2005 年度より実施しています。またカタログに掲載されている製品のパネルの展示も行います。今まで延べ 23 件のカタログ展示を行いました。

2. 製品展示

Pittcon の PAI-NET ブースに展示をするプログラムです。対象となる製品は機器、部品です。部品や機器の製作請負の案内も可能です。このプログラムは 1 年だけでなく連続して何年か続けると大きな効果が期待できます。

③ 展示代行 (2006Pittcon より開始)

貴社の製品の展示を PAI-NET ブースで行います。同時にカタログ、企業案内、動画やスライドショーによるプレゼンを行うことが出来ます。今までの機器展示代行は延べ 8 件です

④ 展示支援 (2009Pittcon より開始)

貴社の担当者が Pittcon に参加する場合のプログラムです。製品を展示するとともに担当者の支援を行います。展示代行と同様にカタログ、企業案内、動画やスライドショーによるプレゼンを行うことが出来ます。

⑥ 面談支援 (2007Pittcon より開始)

興味のあるブースへ出向き面談の支援を行います。この支援は、PAI-NET ブースに直接いらした方へも行います。

支援の成功事例の紹介

「ハンディ元素分析器の海外市場導入支援」

「マイクロエミッション社」は北陸先端大学発のベンチャー企業で同大学の高村教授の発案による液体プラズマ発光による元素分析装置です。現場型機器なので最初から世界市場での販売を目標としており、海外市場展開のために 2009 年にカタログ展示を行いその後、毎年継続して Pittcon へ出展しました。2 年目は装置の展示を行い、2011 年に山本社長が Pittcon に参加し、2012 年には高村先生がコンファレンスで講演を行い、2013 年には JETRO の支援を得ました。これらの活動の結果、2014 年からは米国代理店のブースで出展をしています。



PAI-NET の活動実績

1. 展示会初日のランチョンセミナーの開催

2009 年より毎年コンファレンス会場内の一室でランチョンセミナーを開催しています。ランチョンセミナーは毎年 30 名程の参加者を得て、Pittcon の主催者の一員であるピッツバーグ大学の Fu-Tyan 名誉教授の挨拶で始まり、20 年近く毎年 Pittcon の展示会に参加している当法人の村山



副理事長が「Pittcon の歴史から最近のトピックスまで」の紹介を行います。参加者は初対面の方も多いため、その後は名刺交換等を行って面識をふかめ、サンドイッチ等をつまみながら懇談を行います。

2. OCS(Organaized Contribution Session)の主催

当法人は Pittcon committee と覚書を交わし、テクニカルプログラムの共同提供者となっています。テクニカルプログラムの中で行われる OCS は、1 年近く前にプログラム委員会の審査でテーマが決まります。講演者は Pittcon より招待講演者となりますが参加費用は自弁です。講演当日はテーマ毎に聴講者が頻繁に出入りをします。テーマにより多い時で 40 名、少ない時で 10 名程度と差が大きいのが通常です。当法人が主催した今までのテーマは



2012 : Analytical Instrumentation for bio-materials at practical use

2013 : Next-generation bioanalytical tools and methods for life science research

2014 : Ultrasensitive analytical technologies for biology and chemistry

2015 : New detection methods for functional materials and biomolecules

2016 : Characterization of Micro/Nano Liquid Phases

2017 : Highly sensitive detection of biomolecules and its related techniques

2018 : Advanced imaging and sensing technologies

3. Pittcon Committee との交流

毎年行われるコンファレンスの主催者との会合は、次年度の開催方針やコンファレンスの企画の説明、参加者の動向の報告、当法人の展示内容の報告や日本の市場動向と次年度の活動計画等の説明を行い、質疑応



答が行われます。します。会合には Pittcon の今年と次年度の責任者、コンファレンスのプログラム編成や展示会の責任者、初参加の時から当法人の窓口である Fu 夫妻が参加します。

PAI-NET のブース出展の記録

年表

- 2006 (開催場所オランダ) : ブース出展とカタログ展示、
- 2007 (開催場所シカゴ) : ブース出展とカタログ展示、
- 2008 (開催場所ニューオリンズ) : ブース出展とカタログ展示、
- 2009 (開催場所シカゴ) : ブース出展とカタログ展示、JST 出展支援
- 2010 (開催場所オランダ) : ブース出展とカタログ展示、JST 出展支援
- 2011 (開催場所アトランタ) : ブース出展とカタログ展示、展示代行、
- 2012 (開催場所オランダ) : ブース出展とカタログ展示、展示代行、
- 2013 (開催場所フィラデルフィア) : ブース出展とカタログ展示、展示代行、
- 2014 (開催場所シカゴ) : ブース出展とカタログ展示、展示代行、JST 出展支援
- 2015 (開催場所ニューオリンズ) : ブース出展とカタログ展示、展示代行、JST 出展支援
- 2016 (開催場所アトランタ) : ブース出展とカタログ展示、PAI-NET の商品展示
- 2017 (開催場所シカゴ) : ブース出展とカタログ展示、JST 出展支援
- 2018 (開催場所オランダ) : ブース出展とカタログ展示 展示代行

今までの Pittcon で交流を深めた技術者、販売員は既に 20 カ国以上です。

今までにブースを訪問されて面談をした方の地域は多岐にわたっています。北米 (USA カナダ) や欧州 (英国、ドイツ、デンマーク、イタリア、フランス等) からの訪問者は研究者や企業の技術者が多いのに対して、中南米 (メキシコ、ブラジル、ペルー) やアジア (韓国、中国、台湾、フィリピン、タイ、オーストラリア、モンゴル、タイ等)、中近東 (UAE、サウジアラビア)、アフリカ (南アフリカ) からの訪問者は販売関係者が多いのが特徴です。

Pittcon に講演又はブース出展する場合の年間スケジュール

4 月中旬頃 OCS の募集期限

6 月初旬 コンファレンス講演募集要綱

7 月中旬 ブース出展早期申込期限 (ブース料金の割引あり)

8 月下旬 コンファレンス講演申込締切

コンファレンスのポスター講演は 12 月下旬まで受付けてもらえる可能性あり。

10 月中旬 ブース出展締切

これ以後の申込ではブースが展示会場の端に近い場所となる。

2 月中旬 登録締切 (以後は割高になる)

この Pittcon2018Guide に関する質問・問い合わせ先

分析産業人ネット

Tel 03-5294-3115

E-mail: expo@pai-net.or.jp

